

宣伝ビラ『愛知教育博物館設立趣意書』をめぐる考察

A study of leaflets for the Aichi Educational Museum

加藤 詔士 (KATOH Shoji)

〒453-8777 名古屋市中村区平池町 4-60-6 愛知大学法学部
School of Law, Aichi University, 4-60-6 Hiraike-cho, Nakamura-ku, Nagoya, 453-8777 JAPAN

Abstract

The Aichi Educational Museum was a private museum founded in 1892. To set out the museum, the founders put information and advertisements in the newspapers. They distributed leaflets about the purpose of the museum. They also sent out letters to interested individuals to request funds and other kinds of assistance. At least three types of leaflets have been found. These leaflets show the fiery zeal of the founders to bring the project to realization and the financial difficulties it faced.

はじめに

愛知教育博物館は1892年に設立された私立・私営の博物館である。同博物館を開設するため、発起人たちは新聞に報知し広告を掲載した。博物館の意図するところについての宣伝ビラを配布した。しかも、書状を関係者に送って義援金その他の支援を要請した。そのうち、宣伝ビラは少なくとも3種類が認められている。同ビラから、発起人たちの計画の実現にむけた熱意と財政困難に直面したことが伺われる。

1. 愛知教育博物館の特色

愛知教育博物館は、明治25(1892)年10月16日、名古屋市中区門前町五丁目開設された私営の博物館である。明治34年1月に尾張徳川家に移管され、市内東区徳川町の徳川邸に移築されるまでの8年余、同地で活動を続けた。

活動期間は8年余であったけれども、同館は、教育史ないし博物館史上、特色ある位置を占めている。第一に、文部省や府県が設立し所管した教育博物館とは異なり、民間の発意と賛同者の支援で開設された。それも、私立・私営の教育博物館としては先駆的な実践と考えられる(加藤, 2008, p.2)。

第二に、愛知教育博物館が構想され開設されたのは、実は日本の「教育博物館の衰退」のころであった。東京にあった教育博物館ですら、明治10年代末に明治政府の教育政策が転換するなか、早くもその機能を縮小した。所蔵していた博物標本ならびに理化学標本などは他機関に移管され、同館は学校教育用具の陳列場のように様変わりした。明治20年代に入ると事物を介した教育を重視する開発主義教育の風潮も次第に熱が冷め、各地にあった教育博物館もその存在の意義が弱くなった(石附, 1986, p.194-207; 金山, 2001, p.83-90)。

日本各地で見られる以上のような「教育博物館の衰退」の機運に加えて、愛知教育博物館の場合はさらなる苦難に出会った。新築計画が進展中の明治24年10月28日、濃尾地震に遭遇し新築中の建物の一部が損傷したことで、資金調達に一段と苦慮することになった。なかでも「陳列館ノ工事が七部通り出来上ツタコロデ」大きな損傷を受けたことなどにより当初の計画は遅延した(奈良坂, 1930, p.167)。それだけに、発起人たちは種々の手法を使って、愛知教育博物館の教育意義を訴え構想の紹介・宣伝につとめて義捐者を募った。

後述のように、新聞の報道と広告の掲載、宣伝ビラの作成、書状の送付などという方法を駆使したのだが、そのうち新聞の報道と広告についてはすでに分析されている（加藤，2007；蟹江・西川，2006；西川，2005）。本稿では、宣伝ビラならびに書状について、新資料を具体的に提示するとともに、とくに宣伝ビラについて比較分析を行うことで、愛知教育博物館の歴史像の一端を明らかにする。

2. 愛知教育博物館の設立構想と支援の呼びかけ

(一)

愛知教育博物館は「浪越博物会」という博物研究会の活動のなかから構想され、誕生した。「博物学ヲ講究スル」ことを目的に同好の士が集まって組織した研究会（明治19年4月8日、随意会より改称）であって、会員宅における博物標本ないし写生図の出陳と縦覧、出陳された物品をめぐる講話、野外での博物採集、教育博物会と称する展示会の開催などの活動をしていた。

このうち、教育博物会は会員が採集し考究した博物の標本を一堂に集め、分類整理して陳列し、これを縦覧に供する展示会である。自前の展示施設を持つことができなかつたので、その都度、身近にあった施設を借用して開催した。第一回は明治20年2月14日から16日まで名古屋区^{マツ}役所議事堂で、第二回は同年12月12日から17日まで市内南外堀町の元師範学校で、第三回は明治22年5月25日から31日まで市内門前町の愛知県博物館において、それぞれ開催している。

第三回教育博物会がとくに盛況であって、7日間の開催中、児童生徒および学校教職員6515名、一般3441名、合計9956名が参観した（加藤，2008，p.6；加藤，2012，p.5）。開催にあたり、地元紙『金城新報』は下記のように報道し、参観を奨励している（金城新報，1889c，p.1）。

「浪越博物会 学校生徒等に取りては極めて裨益を與ふること大なるに付き名古屋区内の県立諸学校職員及び各小学校教員等何れも寄附金をなさんと頻りに盡力中なりといへり」。

「博物会の開会 学校生徒は勿論一般博物学の篤志者にも縦覧を許すとの事なるが定めて羽毛鱗介、紅緑青紫、重疊雑陳して炳然たる光彩を満場に放つの奇観ある可し之を彼の無益の育論を座間に闢かはして懇親会など唱へ社会を謳て燈光杯影の間に埋没し去らんとする者に比すれば其の得喪豈に畜だ霄壤のみならんや」。

浪越博物会の会員諸氏は、三回におよぶ教育博物会の開催実績をもとに、博物の諸品を陳列しこれをとくに児童生徒の縦覧に供することで智識を開発することの意義を認識したと思われる。やがて、教育博物館という常設の展示施設を新築する構想を企てることになる。その中心となったのは奈良坂源一郎（1854-1934）であった。浪越博物会の会員であり、愛知医学校教諭（解剖学、組織学、胎生学を担当）であった奈良坂は、同志とはかつて「愛知教育博物館」という常設の施設を開設する構想を固め、本館新築費の義捐を訴えた。明治22年7月付の設立趣意書「私立愛知教育博物館設立之旨趣」を作成し、同年8月1日、2日、6日付の『金城新報』に掲載して構想を発表し趣旨の徹底を図った（金城新報，1889a）。それ以降も教育博物館の意義を唱道し、義捐を訴えつづけた。県内だけでなく、他府県の在住者からも多額の義捐が寄せられた。新築が成り、明治25年10月16日に開館式をおこない翌17日に開館したのだから、新築構想の表明から3年余によろやく実現されたことになる（加藤，2008；加藤，2012）。

(二)

愛知教育博物館は私立・私営であり、この種の先駆的な教育博物館であった。それだけに、発起人たちは幅広く拠金を呼びかけ支援を求めた。とくに「本館新築ノ費ヲ義捐セラレンコトヲ望ム」（金

城新報, 1889a, 各 p.3) という方針であったので, 種々の手法を使って義捐を呼びかけた. 新聞における報道と広告の掲載, 宣伝ビラの作成と配布, 書状による支援要請, などである.

第一の新聞を活用した報道と宣伝については, まず「設立趣意書」を作成し, これを地元紙『金城新報』の, 明治22年8月1日, 2日, 6日号の広告欄に3回掲載して賛同者を募った(金城新報, 1889a).

同「設立趣意書」では, それまでの書物中心の教育にかわって, 博物学教育の意義を説いている. 実実業について勉強することの意義を説き, 教育博物館を開設することの効用と必要性を説明している. 博物館を開設すれば「百聞は一見に如かず」というように, 実物教育の確かな成果が期待されるというのである. そのうえで, 新築費用の寄附を訴え, 義捐金の振り込みの方法を周知した. 3カ月の分割払いでもいい, とともに提案した. 発起人として, 会長兼会計主任の奈良坂源一郎, 会計主任兼幹事の丹羽精五郎, 幹事の坂崎親成はじめ計10名の名前が列挙されている(金城新報, 1889a, 各 p.3). 明治22年10月には「新築計画の概略」を作成し, これも新聞に掲載して周知した(金城新報, 1889b, p.3). 教育博物館を設立する構想と新築計画の概要が発表されると, 趣旨に賛同し義捐の申し出をなす者があらわれた. 地元の新聞『金城新報』『扶桑新聞』などは, 教育博物館の計画の進行を丹念に報道するとともに, 寄附者氏名とその寄附金額を掲載した. とりわけ『金城新報』は教育博物館構想に大きな関心を示し, 繰り返し報道した. 設立の構想とそれに至る前史, 設立趣意書の作成と内容, 開館までの事情と経緯, 標本の収集と寄贈の依頼, 建物の新築と移築, 資金の調達, 義捐の募集, 義捐者・寄附者の氏名と金額, 新築の歛入れ式, 開館式典, 開館案内など, 多彩な内容が含まれている(蟹江・西川, 2006; 加藤, 2007). このうち, 寄附者の姓名(ときには住所も)ならびに寄附額についての度重なる新聞報道は, 設立構想の浸透に寄与し, 義捐金の増加を促したはずである. 寄附者の氏名と寄附額の報道記事は, 管見の限り, 25回におよぶ(加藤, 2007).

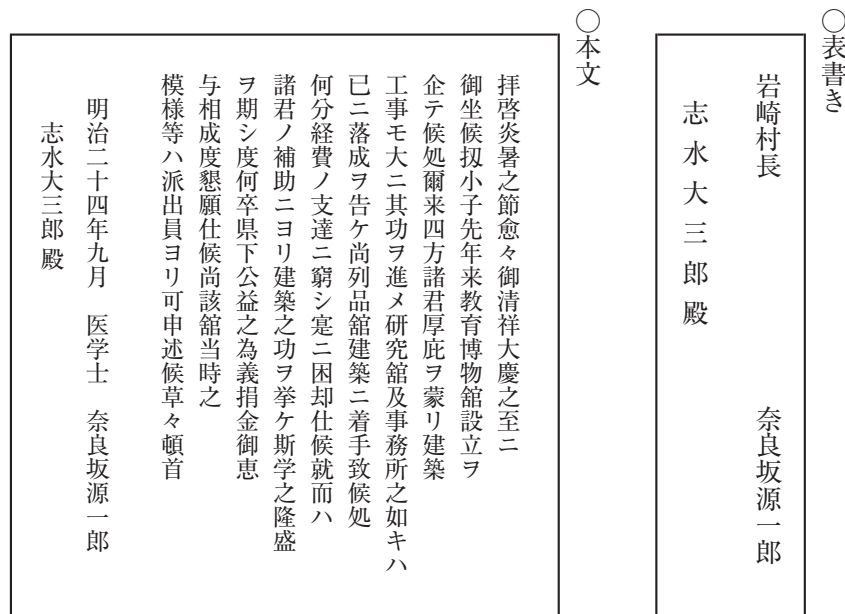
新聞紙上で寄附者とその寄附金額を報道することとは別に, 発起人たちは寄附状況を地区別に一括整理した一枚ものの「精算表」も作成し, これを配布した. その一つが『愛知教育博物館設立ニ付該費義捐金名古屋市外諸氏姓名一覧表』である. 縦310ミリ, 横353ミリという大判のビラで, 和紙に活版印刷されている. 郡および町村ごとの寄附者一覧表が表面と裏面に配されている. 具体的には, 名古屋市を除く愛知県内を17郡, 211町村に分類し, これに「他府県之部」を特設し, 各区分ごとに義捐者個人の名氏名および義捐金額がそれぞれ掲示されている. 総計すると, 義捐者はのべ563名, 義捐金額は2153円50銭にのぼる. 同一覧表は「名古屋市外諸氏姓名一覧表」であるので, 名古屋市内についてもこれに相当する一覧表が作成され配布されたであろうと推定される. この義捐者一覧ビラは, 支援の実際を世に示し篤志に対して謝意を表すると同時に, これを配布して義捐者の増加をねらった企画であったと考えられる. 裏面の末尾に「右者明治廿六年 月調査ニ係ル」とあるから, 開館した翌年に作成され配布されたことになる.

拠金を呼びかけ支援を求める第二の手法は, 宣伝ビラの作成と配布である. 設立趣旨ならびに新築概略を記した宣伝ビラを別に作成し, これを配布して広く義捐を募っている. 新聞を活用した広報宣伝だけでなく, 広告ビラという印刷媒体も活用したのである. それも1回だけでなく, 計画の進展に応じて何度か作成している. 数多く印刷頒布されたにちがいないが, 一枚刷りであるためか, 多くは一読後破棄されたか, 反故同然に見られたであろうから, 残存はいたって少ない. そのなか, 筆者はこれまでに3種類の宣伝ビラを確認している. それらの内容と異同については, 後に詳述する.

支援を求める第三の手法として, 書状を認め個人に対して直接募金を要請することもあった. 筆者はこれまでに3通の書状を確認している. その一は, 奈良坂源一郎が先頭に立ってしたための書状で

ある。資料①は、愛知県下岩崎村の村長志水大三郎にあてた奈良坂の書状（翻刻）であって（筆者蔵）、長形の和封筒の表書きに「岩崎村長 志水大三郎」、本文の宛所にも「志水大三郎」とある。書状は刷り物ではなく、漉いた和紙にしたためられている。日付は明治24年9月で、後出の宣伝ビラ（資料④）を添えて支援を要請している。研究館と事務所は落成し、いま「列品館建設ニ着手致候処何分経費ノ支達ニ窮シ寔ニ困却」し苦慮している。「建築之功ヲ挙ケ斯学之隆盛ヲ期シ度何卒県下公益之為」義捐金をお願いしたい。詳細は派出員を差し向けて説明させる、という内容である。

資料① 「奈良坂源一郎の書状（写）」（一）。筆者蔵。



資料②も奈良坂源一郎の書状（翻刻）である。同じ明治24年の7月付で、資料①と同じように、愛知教育博物館の建築状況を報告し、「何分経費ノ支途多額ヲ要シ候ニ付一層諸君之補助ニヨリ建築之功ヲ挙ケ斯学之隆盛ヲ期シ度何卒県下公益之為義捐金御恵与相成候様懇願仕候」と依頼をしている。「医学士奈良坂源一郎」という差出人には、「教育博物会長奈良坂源一郎印」という四角印が捺されている。

本書状は封筒に欠け、しかも本文の宛所に氏名が記されていない。しかしながら、「酒井家文書」に収蔵されており、また明治24年7月という日付からみて、愛知県西加茂郡三好町福田（現みよし市福田）において代々眼科医を営む酒井家の第12代当主・酒井利泰（1853-1925）に宛てられたと推定されている（田崎哲郎（編），1996, p.75）。

本書状は刷り物であること、しかも宛名に欠け「教育博物会長奈良坂源一郎印」という印影が認められるということは、酒井氏以外の関係者にも同一の書状が送付され支援が要請されたのであろうと推定される。

その二は、愛知県額田郡幸田町坂崎村の天津家に伝わる書状であって（天津家文書）、資料③にみられるように、原川権平ならびに内海共之の両名が天津島次郎あてに発した書状である。「愛知教育博物館設立之儀ハ本県教育上之一大美挙ニ付本県知事始メ非常之賛成ニテ館長医学士奈良坂氏之尽力ニヨリ工事モ追々捗取」るが、「経費不足」に陥っているにつき「教育之為メ義捐金御恵投有之度」としたためられていて、内容と趣旨は資料①の奈良坂源一郎の書状とほとんど同一である。日付も同じ明治24年の9月であるから、奈良坂の意向を受けた両名が発した書状であろうと推量される。

資料② 「奈良坂源一郎の書状（写）」（二）、酒井家文書、みよし市歴史民俗資料館より。

○本文

拝啓愈々御清祥大慶之至ニ御座候扱少子先年来教育博物館設立ヲ企テ候処爾来四方諸君之厚庇ニ拠リ研究館及事務所之如キハ已ニ成功シ尚列品館建築工事モ目今過半落成ヲ告ル場合ニ至リ候処何分経費ノ支途多額ヲ要シ候ニ付一層諸君之補助ニヨリ建築之功ヲ挙ケ斯学之隆盛ヲ期シ度何卒県下公益之為義捐金御恵与相成候様懇願仕候尚該館当時之模様等ハ派出員ヨリ可申述候早々頓首

明治二十四年七月 医学士 奈良坂源一郎

教育博物館会長
奈良坂源一郎印

資料③ 大津家文書のなかの書状（写）・山下廉太郎氏提供資料より

○本文

謹啓益々御多祥奉賀候却説兼而御承知相成候愛知教育博物館設立之儀ハ本県教育上之一大美挙ニ付本県知事始メ非常之賛成ニテ館長医学士奈良坂氏之尽力ニヨリ工事モ追々捗取り研究館事務所等ハ已ニ落成ヲ告ケ今ヤ将ニ陳列館之建築ニ取掛リ居候処何分経費不足ニ付此際各位ニ於テモ教育之為メ義捐金御恵投有之度小生ヨリ別而及御依頼候尚委細ハ該館派出員ヨリ御聞取相成度候草々拝白

(4)

明治二十四年九月九日 原川権平
内海共之

大津島次郎殿

以上のような新聞広告、宣伝ビラ、書状という三つの手法による義捐金要請からは、発起人たちの愛知教育博物館の開設に向けた熱情と必死さが伝わってくる。

3. 3種類の宣伝ビラ『愛知教育博物館設立趣意書』

(一)

宣伝ビラ『愛知教育博物館設立趣意書』は、管見のかぎり、3種類ある。別掲の資料④⑤⑥の3種類である（資料④⑥は筆者蔵、資料⑤は名古屋市博物館蔵）。いずれも洋紙に活版刷りでもって作成

愛知教育博物館設立之旨趣及ビ新築之概略

抑々教育ノ目的タルモノハ人々産興ヲ盛ニシテ在リ故ニ方今ノ教育ハ昔時ノ如ク徒ラニ高卷ノ書ヲ讀ムニアラズ多クハ實物ニ就テ研究スルニ在リ蓋シ各學科ノ中間ニ應用ノ道頗ル廣ク人世ニ最モ須用ナルハ...

義捐者ニ對スル本館ノ義務

- 一六圓以上ヲ寄附セラレタル諸君特別會員トシ其証ヲ差出ス事
一特別會員証ハ左ノ權限アル者トス
一本館内研究物品ノ兩場共權覽スルコトヲ得
家族ヲ携帶スルコトヲ得
聽講スルコトヲ得

愛知縣教育博物館新築經費之概略

- 一本館ハ市內交通便利ノ地ヲシテ建設シ普ク縣下ノ教育ヲ振興セントス
一本館ヲ分テ二部トナシ一ヲ陳列館トシ一ヲ研究室トシ事務所トシ別ニ設クル者トス
一陳列館ハ海ノ内外ヲ問ハズ動植物ノ三界ニ屬スル物品ヲ普ク陳列シテ公衆ノ參觀ニ供スル所トス
一研究室ハ動物ノ解剖標本ノ分拆健体及ヒ病体ノ組織並ニ其產物檢査等ニ應用ノ器械ヲ準備シ顯微鏡ヲ置キ是等ノ研究ヲ爲ス所トス

愛知博物館會長 奈良坂源一郎 名古屋市中之町三丁目

愛知教育博物館設立之旨趣及ビ新築之概略

抑々教育ノ目的タルモノハ人々産興ヲ盛ニシテ在リ故ニ方今ノ教育ハ昔時ノ如ク徒ラニ高卷ノ書ヲ讀ムニアラズ多クハ實物ニ就テ研究スルニ在リ蓋シ各學科ノ中間ニ應用ノ道頗ル廣ク人世ニ最モ須用ナルハ...

義捐者ニ對スル本館ノ義務

- 一六圓以上ヲ寄附セラレタル諸君特別會員トシ其証ヲ贈呈スル事
一特別會員証ハ左ノ權限アル者トス
一本館内研究物品ノ兩場共權覽スルコトヲ得
家族ヲ携帶スルコトヲ得
聽講スルコトヲ得

愛知縣教育博物館新築經費之概略

- 一本館ハ當市門前附五丁目七ツ寺場外地ニ建設ス
一本館ヲ分テ二部トナシ一ヲ陳列館トシ一ヲ研究室トシ事務所トシ別ニ設クル者トス
一陳列館ハ海ノ内外ヲ問ハズ動植物ノ三界ニ屬スル物品ヲ普ク陳列シテ公衆ノ參觀ニ供スル所トス
一研究室ハ動物ノ解剖標本ノ分拆健体及ヒ病体ノ組織並ニ其產物檢査等ニ應用ノ器械ヲ準備シ顯微鏡ヲ置キ是等ノ研究ヲ爲ス所トス

愛知博物館會長 奈良坂源一郎 名古屋市中之町三丁目

愛知教育博物館設立之旨趣及ヒ新築之概略

抑々教育ノ目的タルハ人々を産ヲ興ニ業ヲ盛ニスルニ在リ故ニ方今ノ教育ノ昔時ノ如ク徒ラニ萬巻ノ書ヲ讀ムニアラズシテ多クハ實物ヲ以テ研究スルニ在リ蓋シ各學科ノ中世間ニ應用ノ道頗ル廣ク人々ニ最モ須用ナルハ博物學ナリ此學科ヲ研究スルハ種々ノ標本ヲ網羅シ實事實物ニ就テ學バザル可ラス故ニ學校ヲ開辦シテ總テ致富ノ道ニ心ヲ用ユルハ此等ノ品ヲ備フル肝要ナレドモ如何モゾ千千萬ノ多種ナル動植物ノ標本ヲ集ルルハ容易ノ業ニアラズ去リテ古人ノ所謂百聞一見ニ如ズル金言ノ如ク博物學ノ實物ニ依ラザレバ學ブモ益ナシ生等愛ニ見ルアラバアリアテ會テ混越博物館ヲ起シ同胞ノ士ト俱ニ此學ヲ講究シ動植物ノ標本ヲ種類一萬有餘種其員數二萬五千有餘品ヲ所持シ毎年二回之ヲ陳列シテ公衆ノ縱覽ヲ許セシガ爲ラ本縣下ノ情況ヲ通觀スルニ二郡ニ都ヲ大都會ナルモモ拘ハラズ教育博物館ノ設クニハ一大大典ニ謂フベシ依テ生等採集セシ標本ヲ悉皆寄附シ尾參兩國ノ爲メ一ノ教育博物館ヲ設立セシムルニ欲シ之勝間田岩村千田前縣知事黒川前師團長横井前軍醫長其他朝野ノ諸紳士ニ謀リシモ幸ニ大賛成ヲ得リ希クハ本縣下有志諸君ニ於テモ此業ヲ贊成シ本館新築ノ費用ヲ義捐セラレテ希望ス

義捐者ニ對スル本館ノ義務

一六圓以上ヲ寄附セラレタル諸君ヲ特別會員トシ其証ヲ贈呈スル事
一特別會員証ハ左ノ權限アル事トス
本館内研究物品ノ兩端共縱覽スルヲ得
家族ヲ攜帶スルヲ得
聽講スルヲ得

一五圓以下ヲ寄附セラル、諸君ニハ特別運券ヲ贈呈シ寄附ノ金高ニ應ジ年限ヲ定メ前項ノ權利ヲ享有セザル事

愛知縣教育博物館新築經畫之概略

一本館ハ當市門前町五丁目七ツ寺境外地ニ建設ス
一本院ヲ分テ二館トナシ一ヲ陳列館トシ一ヲ研究館トシ一ヲ事務所ト設ク
一陳列館ハ海ノ内外ヲ同ハズ動植物ノ三界ニ屬スル物品ヲ普ク陳列シテ公衆ノ參觀ニ供スル所トス
一研究館ヲ四部トス即研究室圖書室參考室講義室ニテ
一研究室ハ動植物ノ解剖標物ノ分拆標本及ヒ標本ノ組織並ニ其產物検査等ニ應用ノ器械ヲ準備シ顯微鏡ヲ置キ是等ノ研究ヲ爲ス所トス
一圖書室ハ書籍雜誌ヲ兼テ前項ノ關係アル書籍圖書及雜誌類ヲ廣ク集メテ以テ縱覽セザル所トス
一參考室ハ博物學ノ世ニ應用ノ廣大無窮ナル事ヲ知ラシメテ更ニ物品ヲ陳列シテ應用ノ道ヲ詳記セテ參考セザル所トス例之ハ内外ノ藥劑藥石或ハ内臟寄生蟲或ハ微菌類ノ標品或ハ動物標本ヲ救免ニ當ツベキ者或ハ工業上ニ關係アル者或ハ有毒ノ物等ヲ網羅シテ參考ニ供スル類ノ如ク最モ此室ニモ顯微鏡ヲ備フル者トス
一講義室ハ毎月定日ヲ設ク博物學三科ヲ始メ尙其區域内ニ屬スル者ニシテ而シテ醫科ニモ必要ナル學科等ノ講義ヲ開ク所トス最モ各科ノ講義ハ皆テ専門家ヲ以テ是ニ充ル者トス休講ノ日ハ會員ノ談合所ニモ用ニル者トス

一陳列館ハ普ク衆庶ノ縱覽ヲ許シ雖モ研究館ハ會員及ビ義捐者ノ限ル
一陳列館内ニ陳列スベキ物品ハ現今既ニ一萬有餘種其員數二萬五千有餘ヲ保存セリ
一掃外ニハ庭園ヲ設クテ學用ノ種々ヲ栽培シ且ツ動物ヲ飼養スルヲアルベシ
一以上ノ總經畫ニ要スル所ノ費額凡ソ五千圓トス其内二千六百圓ヲ建築費トシ一千四百圓ヲ内外ノ準備費トシ尙ホ此他ノ創立費トシテ一千圓ヲ要スル者トス
追テ義捐金御差出ノ手續會長若クハ左ノ銀行ニ御拂込テ請フ但シ諸君ノ御都合ニ依リ御約束ノ月ヨリ二三ヶ月間御約束ノ全額ヲ御振込相成ル妨グナシ

名古屋市新柳町第百三拾四圓立銀行 三河國豐橋町大字八丁目百三十四圓立銀行支店

愛知教育博物館

されている。その基本的な構成および内容は同一であって、「設立之旨趣」「義捐者ニ對スル本館ノ義務」「新築經畫之概略」、義捐金の振込先と振込方法という、四部から成っている。ただし、具体的な記述内容には注目すべき異同がいくつか認められる。はなはだ興味深い。

第一に、そもそも表題の標記ならびに発行者について相違がみられる。資料④の宣伝ビラは、題目は「愛知教育博物館設立之旨趣及ヒ新築之概略」、発行者は「愛知博物会長 医学士 奈良坂源一郎 名古屋市仲之町三丁目」、資料⑤の題字は「愛知教育博物館設立之旨趣及ヒ新築之概畧」、発行者は資料④と同じ「愛知博物会長 医学士 奈良坂源一郎 名古屋市仲之町三丁目」であるのに対し、資料⑥の宣伝ビラは「愛知教育博物館設立之旨趣及ヒ新築之概略」という題字、発行者は「愛知教育博物会」とある。

そのうち、発行者の違いは愛知教育博物館の運営主体の変更を示しているだけに重要である。資料④および資料⑤は愛知博物会長奈良坂源一郎、資料⑥は愛知教育博物会という異同が認められるが、愛知博物会から愛知教育博物会へという名称変更とその時期を証明する記録は、いまだ捜しえないでいる(西川, 2005, p.174, p.180)。

「設立之旨趣」の部については、まず所有している標本の種類および点数が異なっている。資料④は「動植物ノ標本ヲ種類五千有余種其員數二萬五千有余品」とあるが、資料⑤および⑥になると「動植物ノ標本ヲ種類一万余種其員數二萬五千有余品」と変わっており、充実ぶりがうかがわれる。

第二に、愛知教育博物館を設立する趣旨と構想に賛同した「朝野ノ諸紳士」についての表記の違いが注目される。資料④では「勝間田前県知事岩村現県知事黒川師團長横井前軍医長其他」とあるが、資料⑤および⑥では「勝間田岩村千田前県知事黒川前師團長横井前軍医長其他」と修正されている。

この県知事の表記の違いから、資料④は岩村高俊愛知県知事の就任期間（明治23年5月21日から明治25年1月15日まで）中に発行されたのに対し、資料⑤および⑥は千田貞暁知事の任期（明治25年1月15日から明治25年7月20日）終了以降に発行された宣伝ビラであることが判明する。千田貞暁知事の任期満了は明治25年7月20日であるから、それ以後といえは愛知教育博物館が新築落成する間近のころである。同年10月16日に開館式が挙行され翌日に開館するのだから、開館間際になってもなお、宣伝ビラをあらたに作成し義捐金を呼びかけたということになる。それだけ財政面でなお窮していたであろうと解される。

なお、資料④の宣伝ビラは、前述のように、明治24年9月、奈良坂源一郎が愛知県下岩崎村の村長志水大三郎あてに義捐を呼びかけた書状に添付された宣伝ビラである。

(二)

第三に、「新築経画之概略」の点について、資料④⑤⑥は、先に明治22年10月30日に公開された「愛知教育博物館新築経画之概略」（金城新報、1889b, p.3）と内容および構成がほぼ同一であるが、これをより具体的に示した内容になっている。また、充実ぶりが明らかである。

その一は、所在地について、資料④は「本館ハ市内交通便利ノ地ヲトシテ建設シ普ク県下ノ教育ヲ振興セントス」とあって、まだ確定していなかった。用地のメドが立っていないのに義捐を募るといふのだから、相当な意気ごみである。それが、資料⑤および⑥になると「当市門前町五丁目七ツ寺境外地ニ建設ス」と確定するに至っている。ただし、そこは借地であった。別の史料「借地證書」（西川、2005, p.175-176）によると、借用期間は明治23年12月から30年間、借地料は月7円50銭であった。借用契約は奈良坂源一郎、坂崎親成、井上弦吉の三名の名前で取り交わされている。前出の設立趣意書を作成し地元紙に掲載して賛同者に訴えたのは明治22年8月だから、1年4カ月を要してようやく活動拠点を見つけたことになる。

その二に、陳列館の陳列物品については、前記のように、資料④では「種類五千有余種其員数二万五千有余品」を保存していたが、資料⑤⑥では「種類一万有余種其員数二万五千有余品」を所有するとあり、品種の充実ぶりが具体的に分かる。

その三に、計画内容の実現に要する総予算についても、資料④では「総経画ニ要スル所ノ費額凡ソ三千六百円トス其内二千六百円ヲ建築費トシ一千円ヲ内外ノ準備費トシ尚ホ此他ノ創立費トシテ四百八拾円ヲ要スル者トス」と計画されたが、資料⑤および⑥になると、総計費は5,000円と見積もり、そのうち建築費に2,600円を、内外の準備費に1,400円、その他の創立費に1,000円をあてることに修正している。

3種類の宣伝ビラの相違点の第四は、義捐金の振り込み期限が、資料④では「来ル明治二十四年十二月ヲ限トシ」と規定されていたが、資料⑤⑥になると「御約束ノ月ヨリ二三ヶ月御約束ノ金額ヲ御振込」をと修正されていることである。振り込み状況が予定通りに進んでいないため、あらためて「意趣書」を作成し直して支援を呼びかけたのであった。

なお、宣伝ビラは内容および表記だけでなく、形状の点でも同一ではない。寸法および本文を囲む枠の図柄について異同が認められる。寸法は資料④は縦230ミリ、横320ミリだが、資料⑤は縦232ミリ、横319ミリ、資料⑥は縦230ミリ、横328ミリと若干の差異がある。設立趣意書を囲む外枠は図柄は三種ともに同一でなく、また寸法についても資料④は縦198ミリ、横283ミリ、資料⑤は縦195ミリ、横286ミリ、資料⑥は縦195ミリ、横287ミリとこれまた若干の差異が認められる。

以上のように、資料④と資料⑤、資料⑥には内容ならびに形状の点において異同が認められる。

4. むすび

(一)

愛知教育博物館は私立・私営であり、しかもこの種の教育博物館としては先駆であった。それだけに、その効用を説いて有志からの義捐がおおいに期待された。発起人たちは種々の手法を使って支援を呼びかけている。とりわけ新聞における報道と広告の掲載、宣伝ビラの作成と配布、個人に対する書状による支援要請が注目される。いづれも一度ならず何回か企てている。これら新聞、宣伝ビラ、書状は愛知教育博物館の歴史像を分析するうえで欠かせない重要史料である。設立計画の進捗状況が具体的にうかがわれるからである。

そのうち、宣伝ビラの作成による愛知教育博物館の意義の唱道と義捐の呼びかけについては、少なくとも3種類の宣伝ビラが確認されることが特筆される。これらの宣伝ビラの分析から、下記の諸点が明らかになる。

その一は、宣伝ビラは呼びかける対象の違いに応じて作成されたのではなく、開館に至るまでの時期に応じて作成されている。最初の宣伝ビラは建設用地が確定する明治23年12月よりも以前に、早くも作成された。第二の宣伝ビラは千田貞暁愛知県知事の任期が満了した明治25年7月20日以降と推定される。第三の宣伝ビラはそれよりもさらに後で、新築工事が完了し明治25年10月16日に開館する間際と推定される。

その二は、愛知教育博物館の運営主体は、当初は愛知博物会と名乗ったが、そのご愛知教育博物会に変更された。変更の時期は、上記第三の宣伝ビラは愛知教育博物会の発行によるのだから、明治25年10月16日に開館する間際のことと推定される。

その三に、発起人たちの熱意にもかかわらず、開館近くになってもなお財政面での窮状ぶりがうかがわれる。

(二)

愛知教育博物館では新聞、宣伝ビラ、書状などという手法を使って何度も支援を呼びかけたのだが、他の教育博物館ではどのような経営行動がみられたのだろうか。意義を高唱し、構想を紹介宣伝し、義捐を呼びかけるために、愛知教育博物館と同じような手法がとられたのか、あるいは他の方法が案出されたのかどうか、などという点は検討すべき重要な課題となる。教育博物館史における愛知教育博物館の特色や位置づけについて理解を深められからである。残された課題とする。

謝 辞

下記文献中、酒井家文書（愛知県西加茂郡三好町福田）の利用にあたって、みよし市歴史民俗資料館学芸員・塚本弥寿人氏からご教示を受けた。記して多謝する。

引用文献

- 石附 実（1986）*教育博物館と明治の子ども（異文化接触と日本の教育）*。福村出版。
- 加藤詔士（2007）『金城新報』に描かれた愛知教育博物館。名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育史研究室、*教育史研究室年報*、**13**、59-96。
- 加藤詔士（2008）愛知教育博物館の開設。名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）、**54(2)**、1-26。
- 加藤詔士（2012）奈良坂源一郎と愛知教育博物館（第22回名古屋大学博物館企画展「奈良坂源一郎『蟲魚圖譜』・解剖学創始者のミュージアム」第2回特別講演会〔2012年1月31日〕報告書）。私家版。
- 金山喜昭（2001）*日本の博物館史*。慶友社。
- 蟹江和子・西川輝昭（2006）愛知教育博物館関係史料の紹介と解説（その2）—当時の新聞記事に見るその足跡—。名古屋大学博物館報告、**22**、267-276。

金城新報（1889a）明治22年8月1日，2日，6日。

金城新報（1889b）明治22年10月30日。

金城新報（1889c）明治22年5月22日，25日。

田崎哲郎（編）（1996）*酒井家文書目録：愛知県西加茂郡三好町福田*。三好酒井家調査団，75p。

奈良坂源一郎（1930）名古屋博物学会及ビ浪越博物学会ノ来歴。名古屋博物学会（編），*学会三十年史*。名古屋博物学会。

西川輝昭（2005）愛知教育博物館関係史料の紹介と解説（その1）。*名古屋大学博物館報告*，**21**，173-182。

（2014年10月15日受付，2015年1月7日受理）